7/3 東福

高齢世帯の半数 年金と恩給のみ

18年国民生活基礎調査

六十五歳以上の高齢者世帯のうち、働いて得られる収入がなく、総所得が公的年金・恩給のみの世帯が半数に上ることが二日、厚生労働省の二〇一八年国民生活基礎調査で分かった。生活状況を聞いたところ、高齢者世帯で「苦しい」と答えた割合は55・1％に上り、前年から0・9ポイント増えた。全世帯でも1・9ポイント増の57・7％だった。一世帯当たりの平均所得（一七年）は、全世帯は五百五十一万六千円で四年ぶりに前年を下回った。

高齢者世帯数は千四百六万三千に上り、全世帯に占める割合は27・6％で、それぞれ過去最高となった。老後に二千万円の蓄えが必要とした金融庁審議会報告書で年金不安が高まる中、多くの人が年金頼みで暮らしている可能性が大きいことが浮き彫りになった。

厚労省は「働く高齢者が増える一方、依然として公的年金のみで暮らす人が多い」と認めた。無年金の人らを除く高齢者世帯のうち、総所得に占める公的年金・恩給の割合が100％の世帯は51・1％に上った。